

## 長大病院は臨床検査の国際規格を取得 国際共同治験への参画が可能に

長崎大学病院の検査部は細胞療法部とともに、昨年3月に、国際標準化機構（ISO）が定めた臨床検査室の国際規格「ISO15189」を取得しました。安定した質の高い臨床検査が世界的に認められたということです。この規格は数年ごとに更新するもので、今後も日々の臨床検査の質を高め

る努力を続け、患者さんに貢献したいと思います。

さらに、国際水準の検査技術・品質が認められたことにより、例えば新しい感染症治療薬の開発に当たっては、最初から国際共同治験に参画できるようにになりました。海外では臨床応用されている薬が、わが国では使えない、いわゆる「ドラッグラグ」の解消にも繋がると期待しています。

次号（2018年5月号）では  
「長崎大学病院旅行外来」を取り上げます。

## 「輸入感染症」のはしか、流行拡大の恐れ

### 母子健康手帳などで、ワクチン接種の確認を

はしか（麻疹）が沖縄県を中心に流行し、愛知県でも沖縄県を旅行した男性の感染が確認されるなど、国内のほかの地域に拡大する恐れが高まっています。

きっかけは、3月に台湾から沖縄に観光旅行にきた30代の男性の外国人でした。本人は麻疹にかかっていることに気づかず、3月17日から3日間、県内の観光地を移動している間に、ホテルや飲食店などで近くにいた人たちに次々と感染させていきました。麻疹と診断されたのは3月20日でした。

その旅行者から感染した人が、ほかの人に麻疹をうつしていく、二次感染の連鎖が続いています。沖縄県によると4月25日までに麻疹と診断された患者数は71人に達しました。二次感染した人が受診した病院では、同じ日にその病院を利用した乳児と20代の男性が麻疹に感染したことも分かりました。

さらに、3月下旬から沖縄を旅行した名古屋市の10代の男性が、帰省先の名古屋市で麻疹と診断され、沖縄で感染した可能性が高いとされています。この男性は、沖縄に旅行した後、埼玉県内の学校に数日間通い、麻疹を発症した後に東京から新幹線で名古屋まで移動しており、沖縄からの飛行機内や新幹線で、ほかの人が感染（三次感染）している可能性もあります。

麻疹は「空気感染」する、とても感染力の強いウイルス感染症です。インフルエンザウイルスは、くしゃみや咳などによる水分を含む重い粒子として飛ぶため（飛沫感染）、ウイルスは2m程度でほとんど床に落ちてしまいます。しかし、麻疹ウイルスは、ふわふわと空中を長く浮遊するため、同じ部屋の中だけで感染する可能性があります。

麻疹ウイルスに感染すると、10～12日の潜伏期間ののちに、鼻水、喉の痛み、咳など風邪のような軽い症状が現れます。しかし、麻疹の典型的な症状である高熱と発疹が出ていないこの時期から、すでに強い感染力を持っています。このため、本人は自覚のないまま、ほかの人に感染を広げてしまうのです。

麻疹を広げないためには、かからないことが最善策で、そのためにはワクチン接種が必要です。現在は、ワクチンの定期予防接種を2回受けることになっていますが、定期接種になる前に生まれた人（概ね28歳以上）は、十分な免疫をもっていません。

ゴールデンウィークなど、これから本格化する観光シーズンでは、大勢の人が国内外を移動します。麻疹にかからない、人にうつさないためにも、子どもの時にワクチンを接種したかどうかを母子健康手帳などで確かめましょう。